

彼方「かなた」

校長通信
H24.9.24
Vol.21

【命の授業】

九月二十一日（金）の午後、助産師の小路和子先生をお招きし、三年生が「命の授業」を行いました。小路先生が体育館に笑顔で入場すると、子供たちからとつても温かな拍手が沸き起こりました。昨年度も実施しているので、三年生にとっては二度目の受講であり、一年ぶりの再会というわけです。

今回は、次の内容でお話を頂きました。

- ・ 赤ちゃん誕生のビデオ
- ・ 性感染症
- ・ 性被害と緊急避妊
- ・ デートDVについて
- ・ 愛するということ
- ・ 思春期に磨いておきたい四つのパワー



赤ちゃん誕生のビデオでは、出産の仕組みを赤ちゃん側からの目線で、命が生まれることがいかに神秘的で奇跡的なことなのかを分かりやすく見せてくれました。

「もし、家の人が留守で大好きな彼女が家に遊びに来て、二人っきりの部屋で過ごすとき、あなたならどこまで求めますか？どこまで許しますか？」の質問に、始めは照れながら「えー！」「やだー！」と盛り上がり、そのうちまた真剣に話を聞き始めまし

た。男子と女子の性ホルモンの分泌期間の違いをグラフで分かりやすく説明していただき、科学的な裏付けをきちんと話した上で男女の受け止め方の違いについて考えさせてくれました。

時にはマイクを受けながら子供たちに考えさせ、「性」と向き合うことで、「命」の大切さを考えさせる素晴らしい授業でした。子供たちも優しい語り口で話される小路ワールドに引きずり込まれ、真剣に聴くことができたようです。

「今、自分がここにいるのは当たり前のようにだけれど、奇跡だということがわかりました。それならば、もう少し自分のことを大切にしようと思えました。ありがとうございました。」という感想や「性のことが少し分かって楽しかった。」「初めて聞く話が多く、自分が大人になるためにはとても大切な話だった。」「悩んでいたことや人に聞けなかったこと等、いろいろなお話が聞けてよかった。」「もっと自分のことを大切にしたいと思った。」「命の大切さがわかった。」「等の感想が沢山出されました。

子ども達は性に関する情報を、男子のほとんどがインターネットのアダルトサイトから、女子のほとんどが携帯小説から得ているというお話もありました。子ども達の周りにほとんど何の規制もかからず垂れ流されている性に関する情報に振り回されることなく、正しく理解し、自分を、周囲を大切にできる生徒に育って欲しいと心の底から願うばかりです。こんな話を讀んだことがあります。「人を好きになる、どうしようもなく好きになることは、神様がそういう風に人間を作ったから仕方がない。でも、好

きになることと、性行為に及ぶことは全然違う。中学生ぐらいの年齢で子供ができて、『できちゃった結婚』したカップルが長続きせず離婚してしまうケースが圧倒的に多いのも現実である。

命をつなぐことの重大さを考えず、その場の雰囲気流されてしまわないよう、五十年一緒に暮らしてきたおじいちゃん、おばあちゃん夫婦を目指せるように、中学二年生ぐらいからしっかり身に付けていかなければならないものがある。それは『我慢』である。」

世の中は、自分の思い通りにならないことが、沢山あります。それでも工夫したり、自分の良さを見つけたたりできるのは確かに『我慢』のお陰かもしれません。今は、子供に『我慢』をさせなくなっていくように思います。そのため、自分で問題を解決できなくなっているように感じます。

誰かが解決してくれるまでじっとしていたり、我慢できなくて衝動的に行動したり、弱いもの（自分が我慢しなくていい対象）をいじめたりするのも我慢のなさからきているように思います。

時には、みんなで我慢大会をしてみるのも『我慢』という薬を意識するにはよいことかもしれません。夏休みの我が家の我慢大会は、「クーラーをつけない」でした。保冷剤やペットボトルを凍らせたのを小脇に抱え、アツツイ夏を乗り切りました。不思議と慣れてくるものです。しかもサラッとした汗をかきやすくなりました。

『我慢』はちよっぴり苦い薬ですが、今の子ども達には必要な薬だと思いませんか。